

# 平成21年度北区政策提案協働事業報告書

平成23年3月

地域振興部地域振興課

# 目 次

第1章	政策提案協働事業の制度について	
1.	政策提案協働事業の概要	2
2.	募集事業の流れ	3
3.	事業募集について	4
第2章	平成21年度実施事業の概要	
1.	北区@丸ごと遊ぶ場計画	6
2.	フェアトレードショップ『北のハチドリ』	10
3.	まちがミュージアムプロジェクト	15
第3章	政策提案協働事業の評価について	
1.	評価の目的	19
2.	事業の評価方法	19
3.	評価項目	19
4.	評価の流れ	19
5.	事業の評価	20

## 第1章 政策提案協働事業の制度について

### 1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の提起した課題に対して提案する「課題提案事業」と自由な発想により提案していただく「自由提案事業」の2種類です。

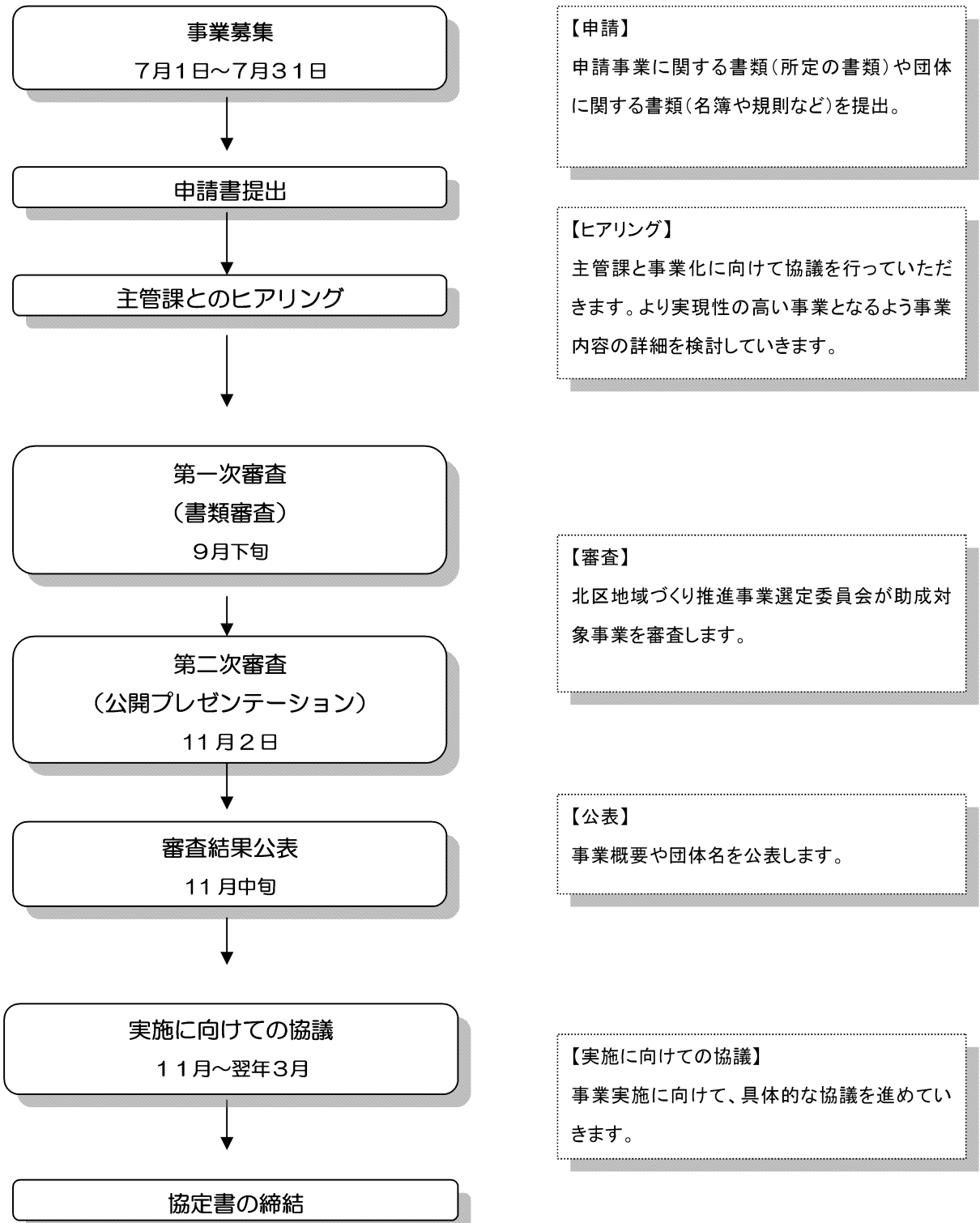
一事業に対して区が支出する上限は、500万円です（平成20年度募集時）。この500万円は、事業を提案した団体（以下「提案団体」という。）と区の双方の事業経費です。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

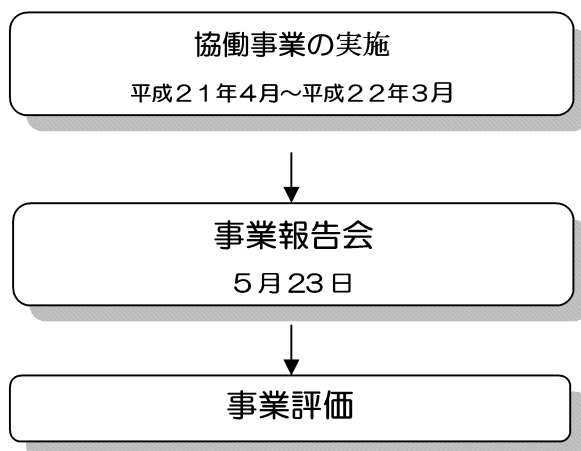
平成20年度は、13事業の応募があり、課題提案事業1事業、自由提案事業2事業の3事業が選定され、21年度に実施しました。

## 2. 募集事業の流れ

【平成20年度】



## 【平成21年度】



### 【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

## 3. 事業募集について

### (1) 課題提案のテーマ

	課題	概要
1	シニア世代の社会参加	これから退職を迎える団塊の世代を含めたシニア世代が、主体的に健康で充実した生活を送れるよう、積極的に社会参加できる場を作る。
2	地域での子育て支援	①屋外での遊び、集団遊びなどを主体として、子ども同士の交流を深めていく。 その中で、家族・地域でのふれあいをさらに深めていく地域での子育て支援事業を実施する。 ②家族ふれあいの日（毎月第三土曜、日曜）に家族間・親子間の交流を中心とした事業を実施する。

## (2) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	①事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	②事業手法に独自性、先駆性が認められるか
	③適切な役割分担となっているか
	④提案事業は実現可能か
	⑤協働で取り組むことによる事業効果を認めることができるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	①提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	②提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることができるか
	④事業内容に整合性が認められるか
	⑤協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

## (3) 選定事業の一覧

### 課題提案事業（地域での子育て支援）

	事業名	団体名
1	きたく@丸ごと遊ぶ場計画	北区で子どもの遊ぶ場をつくる会

### 自由提案事業

	事業名	団体名
1	フェアトレードショップ『北のハチドリ』	ナマケモノ倶楽部
2	まちがミュージアムプロジェクト	NPO 法人北区地域情報化推進協議会

## 第2章 実施事業の概要

### 1. きたく@丸ごと遊ぶ場計画

提案団体 北区で子どもの遊ぶ場をつくる会

主管課 子育て支援課

#### (1) 団体概要

子どもたちが「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとする「プレーパーク」を開催し、子どもの遊びの環境向上を図ること、並びに地域で様々な世代の人々が交流できる場を作ることを目的としています。

#### (2) 事業目的

プレーパークで子ども達が自分の責任で自由に遊ぶことにより自主性や創造性を育み、大人も子どもも外遊びを通して触れ合いを深めることを目的としています。

屋外での遊び、集団遊びなどを主体として、子ども同士の交流を深めていき、その中で、家族・地域での触れ合いをさらに深めていく地域での子育て支援事業を実施します。

#### (3) 事業概要

##### ①プレーパークの定期開催 ～まちの日常の中に外遊びの場を！～

子どもが自由に外遊びを体験する「プレーパーク」を区内2か所で開催しました。また、プレーパークの開催を通じて地域住民の方に公園がコミュニティの場であることを発信し、地域での子育て支援について理解を促すよう努めました。

場 所：いなりプレーパーク（中央公園拡張部分）

桐ヶ丘プレーパーク（桐ヶ丘中央公園 北）

期 間：平成21年5月～平成22年3月 午前10時～5時

人員配置：各箇所1日大人3人

開催回数：いなりプレーパーク 計35回 参加者計 2,834名

桐ヶ丘プレーパーク 計11回 参加者計 507名

## ②ミニイベントの実施

地域の方にプレーパークを知ってもらい、活動を伝えるミニイベントを区内の様々な団体と協力し開催しました。

場 所：中央図書館 3 階ホール

いなりプレーパーク（中央公園拡張部分）

日 程：平成 21 年 11 月 29 日（日）午前 10 時～5 時

参 加 者：約 350 名

テ ー マ：みんながつくるみんなの遊ぶ場！

内 容：中央図書館 3 階ホール

絵本ライブ 絵本作家あきやまただし氏

紙芝居 かみしばいサークル『きたきた座』

昭和歌謡の生演奏 おもひでチューズデー

布芝居 なにぬの屋

いなりプレーパーク

布芝居 なにぬの屋

オカリナ&フルート演奏

スタンプラリー

カフェコーナー

あかちゃんのひろば

協力団体：北区まちづくり公社、北区図書館活動区民の会、北のハチドリ、ほっと村、北区子ども劇場、NPO法人でんでん子ども応援隊、NPO法人北区地域情報化推進協議会





### ③研修会の開催

他地域の事例などから、子どもの外遊びや公園利活用についての知見、情報を収集するための研修会を開催しました。

日 程	講 師	内 容
4月12日	プレーパークむさしの代表池田泰氏	プレーパークむさしの見学し、設立経緯や会の運営、現場の内容などについて話を聞いた。
4月19日	NPO法人日本ファーストエイドソサエティ代表岡野谷純氏	ケガの事故や対応、事前に予知できる「危険」を洗い出す等、安全な環境づくりについて学んだ。
2月16日	プレーリーダー嶋村仁司氏	日本のプレーリーダーの現状についての講義やプレーリーダーやプレースタッフの役割、北区オリジナルの指針づくりについて議論した。
3月10日	プレーリーダー嶋村仁司氏	北区オリジナル指針づくりの検討を行い、試案を作成した。以降継続して検討を加えることとした。

### ④地域の子育て・子育てを支えるための情報発信

プレーパークの日程や意義、外遊びを啓発するためのポスター、広報誌を発行し、区内小学校や保育園、幼稚園、児童館、子育て関連の民間団体などに配布しました。

- ・ポスター 年2回 各300部
- ・チラシ 年2回 各4,000部
- ・広報誌 年4回 各4,500部
- ・ホームページの充実
- ・区内広報誌等の活用

北区ニュース、きたシティへの掲載、北ケーブルテレビの取材受入れ。

#### (4) 事業の成果や課題

プレーパークを通じて子どもたちは遊びが自主的・創造的なものであることを体感し、遊びの中から他者との関係を築くことができました。

子どもたちと外遊びを通じてふれ合う事で、地域住民が自らの子育てや育ちを振り返り、地域を見直しより良い環境にしていきたいという思いを共有するきっかけになりました。

しかし、参加人数は天候に大きく作用され、開催日が少ないと天候によっては参加できる機会が減ってしまいます。子どもたちが自由に外遊びに参加する機会を増やすためには開催回数を増やすこと、プレーリーダーの安定的な雇用環境を整えることが必要です。

また、プレーパーク開催時は公園の一部を占有しているため、地域住民や公園の利用者へ活動について周知し、理解を求めていく活動を続けていくことが大切だと考えています。

#### (5) 平成22年度の取り組み

北区協働推進基金を引き続き活用し、いなりプレーパーク、桐ヶ丘プレーパークの定期開催とスタッフ研修を実施しています。



## 2. フェアトレードショップ『北のハチドリ』

提案団体 ナマケモノ倶楽部

主管課 地域振興課

### (1) 団体概要

自然とのつながり、人とのつながりを壊してきた大量生産、大量消費を超えて、循環型、スローでエコロジカルなライフスタイルを提案しています。

### (2) 事業目的

新たな消費者運動の拠点として、区内にフェアトレード商品を扱うショップ『北のハチドリ』を設け、区民に対しフェアトレードの取り組みやフェアトレードを通じたスローライフの考え方を周知します。

また、体験型ワークショップや海外ゲストの招聘を行い、幅広い区民に参加してもらうことで、ものづくりの体験や生産者とふれあいを通して、フェアトレードをより身近なものにします。

### (3) 事業概要

#### ①フェアトレードショップ「北のハチドリ」の運営

ショップの運営を通じてフェアトレードを広く周知するとともに地域のコミュニティの拠点となるよう運営しました。

#### 【店舗概要】

住 所：王子本町1-9-8キャスタービル1階

営業時間：カフェタイム 午前11時～午後7時

                    パーティタイム 午後7時～午後10時

定休日：水曜日、日曜日（第1, 3, 5週）

席 数：カウンター7席、テーブル10席

開店日数：231日

来店者数：2,751人

#### 【主な商品】

コーヒー、チョコレート、南米エクアドルのフェアトレード商品、国内外のフェアトレード商品

## ②体験型ワークショップの開催

ワークショップを開催し、フェアトレードやスローライフの取組を知ってもらうとともに、参加者同士の交流を図りました。

	日 程	事業名	内 容	参加者
1	4月28日～ 30日	ストローベイルのオブジェづくり	ショップ内にストローベイル（わら）を使ったオブジェを作成	25名
2	5月16日	ラテアート講習会	エスプレッソマシーンの使い方とラテアートの講習会	8名
3	5月20日	エクアドル料理教室	エクアドルの生産者による現地素材を使った料理教室	5名
4	5月28日	段ボールコンポスト	家庭で簡単に取り入れることのできる段ボールを使ったコンポストをつくる	7名
5	6月6日	忘れ物傘の再利用	忘れ物傘の布を使った小物を制作する	5名
7	7月25日	虫よけスプレーづくり	オーガニックの素材を使った虫よけスプレーをつくる	3名
8	7月30日	みつろうキャンドルづくり	みつろうを使ったキャンドルをつくる	2名
9	8月3日	LO&PE365	はぎれで布草履をつくる	2名
10	8月24日	風呂敷包み	オシャレで賢い風呂敷の活用方法を学ぶ	5名
11	10月20日	ハチドリの夜話・ブックパッカー	本を持ちより、集まって本の話をする	5名
13	12月10日	みつろうのらぶさんたキャンドルを作ろう！	みつろうを使ってサンタのキャンドルをつくる	3名
14	12月19日	オルタナティブなものづくりラボ～カカオバターで手づくりクリーム～	カカオバターで手づくりのクリームをつくる	2名
15	1月30日	マヤナッツの森から	グアテマラに自生しているマヤナッツについて学ぶ	3名
16	2月11日	エクアドルの森とチョコレート 森の声キャンペーン	エクアドルの森とチョコレートの話を聞き、カカオからチョコレートをつくる	8名

	日 程	事業名	内 容	参加者
17	2月14日	SUPICY VALENTINE2010 愛 の貿易こうかんしよう、 そうしよう	①バナナの追熟ワークショップ 緑のまま船に乗って日本に 来たバナナがどうしたら黄色い バナナに熟すのかを学ぶ ②カカオ豆からチョコレートづ くり 発酵したカカオ豆からチョコ レートをつくり、チョコバナナ にして試食する	21名
18	2月20日	オルタナティブなものづ くりラボ～カカオバター で手づくりクリーム	カカオバターで手づくりのクリ ームをつくる	2名
19.	3月6日	ナマケモノオリエンテー ション2010～ゆっくり +ダイナミックに世界を 変えよう～	ナマケモノ倶楽部が大切にしてい るキーワードや具体的なムー ブメントを紹介するオリエンテ ーション	11名
20	3月13日	ソルシエール・ミーティ ング～アロマとタロット で香水づくり～	タロットカードを使ったリーデ ィングを行い香水をつくる	5名
21	3月14日	それからどうなったの？ ～作ってみよう、つづき のおはなし～	南米に伝わる昔話「ハチドリ のひとしづく」の物語の続きを親 子で考える	6組
22	3月16日	手前味噌仕込み会	大豆、麴、塩で味噌仕込みをす る	8名



### ③ハチドリの招聘イベント

ショップの開店を記念してイベントを開催し、まだ馴染みのないフェアトレードの取り組みについて海外ゲストを招聘し広く区民に周知しました。

日 時：平成 21 年 5 月 24 日（日）

場 所：北とぴあ展示ホール

内 容：対談 1 「そろそろスローフード、スローライフ！」

イタリア初のスローフード運動や南米のコーヒーの森、そして日本各地のローカル化の試みを訪ね歩いてきたお二人に食文化から世界を見る、カフェからどんな地域づくりが出来るかお話を伺いました。

対談者 辻信一氏、島村菜津氏

対談 2 「南から北へ」

フェアトレードとは何か？を生産地の森の話、作り手の住む村の話、そして、フェアトレードをめぐる世界の動きを交えながら具体的に掘り下げ、北の国に住む私達にできることを考えました。

対談者 ノルマ・ボラニョス氏、シルビア・ベタンコール氏  
長坂寿久氏

講演 1 「北のハチドリショップのスローなデザイン」

ストローベイル、傘のリメイク、グリーンゲリラなど自然素材・リサイクル素材でデザインされた「北のハチドリ」の内装について紹介しました。

講演者 大岩剛一氏、井上萌子氏、森寛暁氏

講演 2 「北のハチドリショップのラテアート」

ショップにも取り入れたラテアートについて紹介しました。

講演者 澤田洋史氏

参加者：約 100 名

#### ④北区オリジナルチョコパッケージの作成

ショップで販売するフェアトレードチョコレートのパッケージイラストを募集しました。来店者の投票を参考に選定を行い、バレンタインデーに合わせて販売しました。

##### 【応募概要】

対 象：区内在住、在勤、在学の方

条 件：応募者本人が描いた未発表オリジナルイラスト

応 募 者：9名



#### (4) 事業の成果や課題

ショップの来店者やワークショップの参加者、イベントの参加者の方々を通じてフェアトレードやスローライフの取組について広く紹介することが出来ました。また、来店者やワークショップ参加者同士の交流や区内のボランティア団体との交流も生まれ、コミュニティカフェとしての役割を果たすことが出来ました。

しかし、ショップへの来店者やワークショップの参加者数の伸びが想像以上に低いものとなりました。フェアトレードへの取組を区内に広く知ってもらうための周知や工夫が不足していたと思います。

#### (5) 平成22年度の取り組み

フェアトレードショップ「北のハチドリ」は、平成22年7月11日をもって閉店いたしました。

### 3. 「まちがミュージアム」プロジェクト

提案団体 NPO法人北区地域情報化推進協議会

主管課 観光振興担当

#### (1) 団体概要

新しい市民社会の実現を理念とし、北区やその周辺に在住、在勤する市民に対して自立した市民主体のまちづくり、地域情報化に関する事業を行っています。

#### (2) 事業目的

区内各所の優れた資源と魅力を発見・創造し、まち全体を博物館として育てていく機会と場を用意し、これからの観光文化を担う能動的市民グループ（観光ボランティア）を組織することを目的としています。

#### (3) 事業概要

##### ①シンポジウム「北区の魅力を問う」

北区に関心を寄せる内外の専門家（歴史家、文化人、産業人、市民等）が集合し、区民と向き合いながら北区の魅力を語りあうシンポジウムを開催しました。そして、参加者のなかから北区観光文化の能動的担い手を募集しました。

日 時：平成 21 年 5 月 18 日 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

会 場：北とぴあ第 2 研修室

内 容：・本事業の紹介

・パネルディスカッション

「北区の魅力を発見するには」

～北区内の博物館や文化活動グループの紹介～

司会 政所利子氏（2008 年 YOKOSO ! JAPAN 大使）

講師 久保埜企美子氏（北区飛鳥山博物館学芸員）

保垣孝幸氏（中央図書館北区の部屋地域資料専門員）

大澤栄美氏（北区史を考える会会長）

藤森永喜氏（北区まちづくり公社「街よ！元気になれ編集委員」）

亀井裕幸氏（北区生活環境部環境課長）



## ②「北区の魅力」創造講座

北区の魅力と物語を地図に向かい合いながら探り、実際にまちをデザインする講座を開催し、実践的な観光ボランティアを育成しました。「歴史文化」「エコロジー」「まち」とテーマ別にチームを編成し、自ら北区の魅力を創造していく講座となりました。

	日 時	主な内容
第1回	7月1日 昼 7月1日 夜	①全体ミーティング オリエンテーション 講座「地図を読む」 講師 今枝忠彦氏（都市計画家） 「WEBで地図検索」 講師 富田好明氏（北区地域情報化推進協議会） ②チームミーティング テーマや検討項目対象エリアを話し合い、作業方針、役割分担などを決めた
第2回	7月22日 昼 7月22日 夜	①全体ミーティング 講座 「デジタル地図(GIS)・画像の活用」 講師 富田好明氏、伊藤清武氏（北区地域情報化推進協議会） ②チームミーティング 前回設定したテーマや作業方針の確認 収集資料等の紹介、地図作製、各チームの報告
第3回	8月26日 昼 8月26日 夜	①全体ミーティング 講座 「地図を作ってみよう」 講師 今枝忠彦氏（都市計画プランナー） ②チームミーティング 収集資料の紹介、作業目標や役割分担の確認、地図作製（下図の用意、地図作成、資料の貼り込みなど）各チームの報告
第4回	10月6日 昼 10月6日 夜	①全体ミーティング 地図作り中間発表「歴史文化」チーム ②チームミーティング 資源マップの作成（収集資料の整理、地図作製、資料の貼り込みなど） 提案マップの作成に向けた準備、各チームの報告
第5回	1月19日 昼 1月19日 夜	①全体ミーティング 取りまとめの方向と各チームの進捗状況の確認 ②チームミーティング 資源マップの仕上げ、提案マップの作成、各チームの報告

### ③「北区の魅力」ガイドツアー

「北区の魅力」創造講座の受講生が、コースを巡りながらガイドについて学びました。また、実際にまちを案内し、参加者に北区の魅力を体感してもらうガイドツアーを実施しました。

	日 時	主な内容
第1回	8月4日	「飛鳥山の3博物館を巡る」～プロのガイドから…学ぼう～ コース：飛鳥山公園モノレール～北区飛鳥山博物館～紙の博物館～渋沢資料館
第2回	9月15日	「石神井川のエコロジーを巡る」～五感を働かせて…エコ散策～ コース：飛鳥山の碑～地主山～音無橋～音無さくら緑地～音無もみじ緑地～音無くぬぎ緑地
第3回	11月17日	「王子周辺の観光スポットを巡りガイドの実践をしよう」 コース：北とびあ～反射炉跡～正受院～旧軍用地の標石～四本木稲荷神社・忠魂碑～寿徳寺・谷津子育て観音～憲兵の詰め所跡～金剛寺～北のハチドリ
第4回	2月9日	「古道を歩く（市場通り～十条）中山道と日光御成道を繋ぐ細道を巡ってみよう」 コース：板橋駅～滝野川市場通り商店街～種屋街道～亀の子束子西尾商店～千川上水分水堰碑～十条富士道～滝野川八幡通りの商店街～八幡神社～寿徳寺～中央公園文化センター～十条野鳥の森緑地～地福寺～日光御成道(岩槻街道)



#### ④成果報告会

事業の集大成として、関係者が集う報告会を開催しました。報告会では、「北区の魅力」創造講座で編成したテーマ別チームの代表者から活動の報告がありました。ホールでは作成した地図のパネル展示や北区名品の販売を行いました。

日 時：平成 22 年 3 月 10 日 午後 4 時 30 分～

会 場：北とぴあ ペガサスホール

内 容：特別講演 落語で学ぶ「王子と江戸文化」 三遊亭小圓朝師匠  
観光 DVD 放映  
成果報告 「みつけよう！つなげよう！北区の魅力」

#### ⑤「北区の魅力」情報発信

北区の魅力を発見・発信するポータルサイトの構築と運営を実施しました。特に北区の魅力を市民の協力で丹念に記録、保管し、これまでとは違った北区のイメージを創造し伝えていくものとなりました。



#### (4) 事業の成果や課題

観光ボランティアガイド養成講座と連携し、講座修了生や区民の方に北区の魅力を発見・創造する実践活動の場と機会を用意することができました。

参加者が実際にまちの魅力を発掘し、創造することの「汗」と「感動」を実感し共有することができ、この新たな取り組みと感動で育てられる連携の輪を形成しました。

しかし、このような事業は長期間の取組が必要で、今後の継続が重要となってきます。今までの蓄積を活かしながら目標に到達するため更なる積み重ねが必要と考えています。

#### (5) 平成 22 年度の取り組み

観光振興担当課の事業として、観光ボランティアと協力し観光のモデルコースの作成を進めています。

### 第3章 政策提案協働事業の評価について

#### 1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組、今後の協働事業に役立てるために行います。

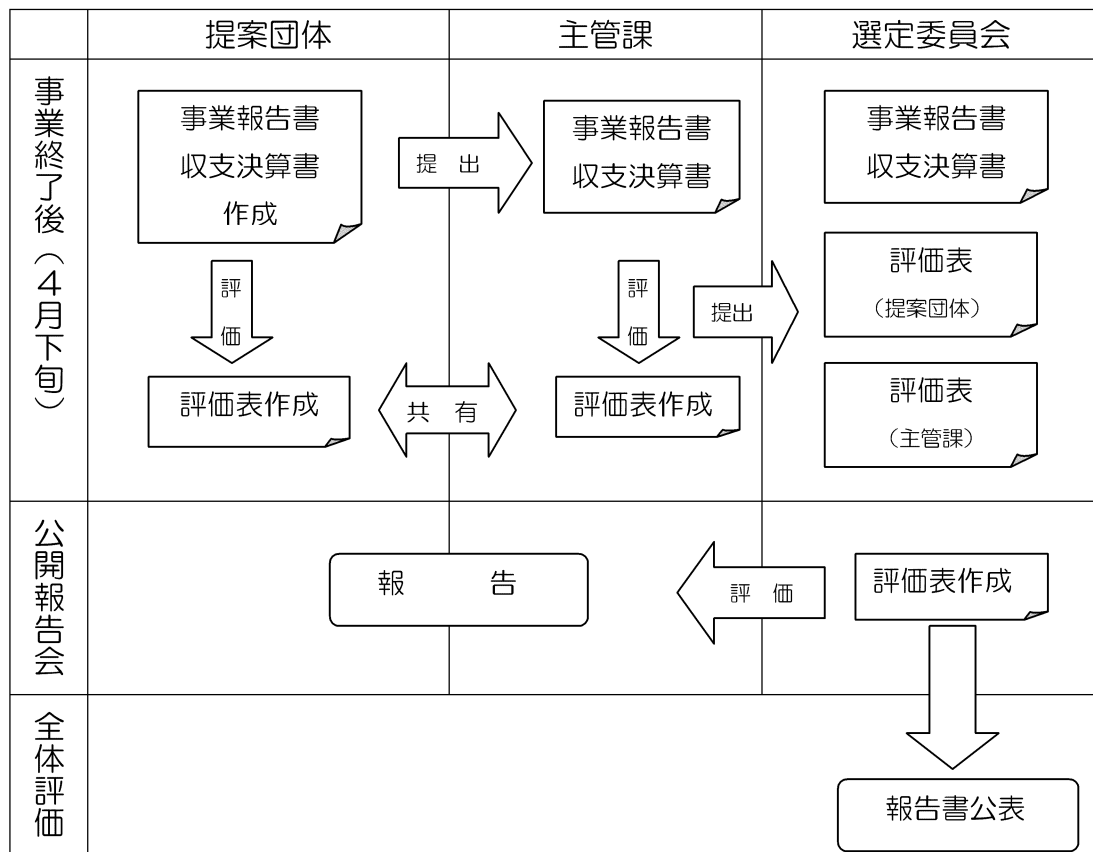
#### 2. 事業の評価方法

協働事業を行った団体と担当の主管課が自己評価を行い、選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員が評価し、その内容を公表します。

#### 3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

#### 4. 評価の流れ



## 5. 事業の評価

### (1) きたく@丸ごと遊ぶ場計画

#### ①計画段階での取り組みについて

子育て支援事業として遊びの場を通じて子どもたちの創造性を育み、親の交流をはかり、地域ぐるみで子どもの成長を促すという課題への対応が計画されている。

しかし、活動拠点が2か所との制約があったため、休日以外は近隣の子どもと親しか参加できなかったと思われる。区全体でこの事業が出来るような仕組みを作ることによって課題解決に結びつくのではないか。

計画段階での話し合いは、対等な立場で話し合う事が出来たようだが、打ち合わせがうまく出来なかった様子も見られた。しかし、協議を重ねていく段階でお互いの立場や目的を共有することができたと思う。

#### ②事業の進め方について

お互いの役割をよく認識しあい、十分に補完しあいながら事業を進めることができた。密度の高い連携によってよい協力体制ができていたと考えられる。

#### ③協働で取り組んだことによる効果について

事業を遂行する中で深い信頼関係ができたものと思われる。財政面、場所の確保、広報活動の充実、協働でなければ得られない成果を得ることができたと思われる。

#### ④協働事業の成果について

ほぼ目的を達成したと思われるが、実際に事業を行ってみてわかる改善点や気づきもあり、今後の新たな目標を設定することができる。

子どもを集めて色々な体験をして成果を上げているが、北区全体の広範囲で進めていくには課題が多いと思われる。今後、学校や他の行政部署と連携して進められれば良いのではないか。

また、住民への周知や、安全対策、活動内容の改良点など、新たな課題を顕在化することができた。

この企画は、現段階では結果を出すのは難しい。また、年が変わって新しい子どもが参加すると新たな問題がおきることもある。事業の改善等の話し合いが十分に出来なかったようなので、この点反省点が残される。

#### ⑤総合評価

子どもの外遊びの重要性に親も周りの人も関心を持ってほしいと思う。遊びを通じて育てていくことが出来る様に大人が考えてあげたい。さらに、子どもの参加を機会にその親たちが主体的に参画したくなる工夫、仕組みを作

って行って欲しい。

本事業はこの一年間を通じ協働事業として大きな成果を上げたと思われる。

さらなる事業の発展や団体の自主的な活動を支援するため、事業の効率的運営、参加者の自己負担の可能性や外部資金の受け入れなど収入の拡大を図る工夫が必要ではないか。

## (2) フェアトレードショップ『北のハチドリ』

### ①計画段階での取り組みについて

区民の環境問題への関心をフェアトレードという形で表現する計画だが、フェアトレードショップの存在が区民に広まってないのは事実である。この問題を区民ニーズにまで高めるためにはもっと根気よく行う必要があると思うし、フェアトレードがなぜ必要なのか多くの区民に理解してもらうには時間が必要なのではないか。

店舗の選定や、運営についての話し合いは十分行われたものと思われるが、経営上の課題についてお互いに意思疎通が図られたとは言えないのではないか。

### ②事業の進め方について

相手のある事なので一か所のショップで成果を出すのはもっと時間も経験も必要なのではないか。事業を進めるにあたり、事業者中心の事業進行になった。お互いの役割分担に不明確さがあったため、十分に役割分担ができていたとはいえないし、意見交換が完全ではなく、事業全体を把握することが難しかった様だ。

また、集客の点で計画通りにいかず、店舗経営の難しさが浮き彫りにされたと思う。

### ③協働で取り組んだことによる効果について

協働事業でなければ店舗を開くことは難しかったと思われるが、継続性という点でやや計画に甘さがあったことは否めない。行政との協働よりむしろ企業等との連携を中心にすべきかもしれない。

フェアトレードの問題やエコロジーの問題はそれぞれ区民の心や頭の中では大切なことだと思う人はいるが、実行している人はほんの一部の人が現状であると思う。

どうしても運営が事業者任せになることになるが、進捗の報告や情報共有がやや不十分であり、団体側の意思疎通への努力が不足していたように感じた。

#### ④協働事業の成果について

フェアトレードを通じて環境や国際問題への意識喚起が十分にできたとは言えないのではないかと。より多くの区民が参加できるようなイベントや店舗のあり方を考える必要があり、もっとPR等の課題など、お互いに理解し合って信頼関係を築いたうえで実施することが大事だったのではないかと。課題や反省点の共有がより強くあれば、もう少し安定した店舗運営ができたのではないかとと思われる。

#### ⑤総合評価

住民同士のコミュニケーションの場を設けることは、地域のコミュニティを活性化するうえでとても重要である。

自分に何が出来るのかを考え、「ハチドリ」の民話のように、小さいことでも「自分に出来る事」を少しずつでもやってみることが大切だと思う。

フェアトレードは時代のニーズにマッチしていると思われるので、方法によってはより健全な運営ができたのではないかと。他の経営プランも考えられたのではと思ひ残念である。

### (3) まちがミュージアムプロジェクト

#### ①計画段階での取り組みについて

区の課題である観光推進へ取り組む計画であり、行政が行っている観光ガイド養成講座等との連携をはかることも計画した区の観光振興策とタイミングも内容もマッチしていた。

活動計画、綿密な事業内容も大変なスケジュールの中で行った様子だが、区と事業者のお互いの特性を活かした役割分担が計画されていた。

このような企画は、もっと早く観光振興担当課でやってもよかったと思うのでその点では、区の課題解決に結びつく計画であった。

#### ②事業の進め方について

事業者の主体性が守られた事業の進行となっており、会議やグループワークの場所と担当課が同じ北とぴあ内であったため相互のコミュニケーションが上手く図られた。

徐々にペースが上がっていくのがわかる。ボランティアの人の都合や天気や相手の都合、多くの問題がある中での足で集めた企画であり、北区の内容をアピールするのにとても楽しいガイドが出来るように作ればよいと思う。

協働して計画に取り組む事が出来たのではないかと。お互いの役割を果たしながら、情報の共有もして対等な立場で事業を実施できた。

### ③協働で取り組んだことによる効果について

計画より色々な事柄が増えて膨らんできており、これから北区について外に対して発信する在り方を探すのに大きな先導的な企画となると思う。協働により行政の取り組みではできないようなきめの細かい内容を実施することができたと思われる。

団体の特徴（人脈や作図のノウハウ）と主管課の方針が合致して相乗効果が生まれた。

### ④協働事業の成果について

実際に北区の魅力を抽出し多くの区民に伝えるところまでは至っておらず、事業の参加者の気付きや出会いにとどまっている。

自分たちの足や耳で造り上げているものなので、出来あがって外側から見ると色々反省をすることがあると思うが、これから続けていくために、その反省を踏まえてより濃い資料を集めておおいに北区をアピールするのを期待している。色々な方面からもっと多くの資料が出てきたり、反対の事柄が出てくるので変化を取り入れながら進んでいくことが意義があると思う。課題や諸々の点を含めて話し合う事が出来たらよいのではないかな。

### ⑤総合評価

「北区」だけでなく他の「区」の調査もして真似をするのではなく「良いプラン」「良いガイドツアー」があれば取り入れるなどし、北区に住めてよかった、北区に住みたい、行ってみたいとなるようになればよいのではないかな。

より多くの区民、あるいは区外からの来訪者に北区の魅力を伝えることは重要な課題であり、より多くの可能性があると思われる。幅広い年齢の方が楽しめる観光ガイドができることを期待しています。

また、観光ボランティアは各々個性が強く、また志向も異なっている。観光スポットや名物商店、学生を含む若者たちの参加や協力をいかに取り込めるかが焦点となるのではないかな。



平成21年度 北区政策提案協働事業報告書

平成23年3月10日発行

刊行物登録番号

22-1-113

東京都北区地域振興部地域振興課  
発行 東京都北区王子本町一丁目15番22号  
電話 3908-8148 (ダイヤルイン)